

政策評価書（要旨）（総合評価）

制度等名	コンピュータ・システム共通運用基盤（COE）の整備	担当部局	長官官房情報通信課
政策分野	その他	実施時期	17年11月～18年1月

制度等の内容	
防衛庁・自衛隊の情報通信システムは、これまで各自衛隊・各機関又は各業務毎に個別に整備されてきたことから、ソフトウェアの動作環境が不整合などのため、システム間の情報の共有化が容易ではなかった。これに対処すべく、各システムの構造、設計、構築手法、重複しているソフトウェア等の共通化を図り、システム間における一層の情報の共有化を推進することとした。	

評価の内容

制度等の効果	方策等の検討
平成14年～15年度には、各システムが利用する防衛庁全体の共通資産（規約、共通プログラムなど）である「コンピュータ・システム共通運用基盤」（以下「COE」という。）を構築し、あわせて、その管理運営組織も発足した。 これにより、システムの換装時等において、重複開発を防止しつつ、オペレーティングシステムや開発言語などが共通化されることから、COEを適用したシステム間の情報共有が進展する一方、最新技術の取り込みの容易性が向上することとなった。	防衛庁・自衛隊に求められる新たなニーズに応えながら多様化が進む自衛隊の活動を効果的に行えるよう、中央及び部隊レベルにおける情報の集約・伝達及び情報共有の充実を図ること、総合的なサイバー攻撃対処態勢の構築を図ること、防衛庁・自衛隊と関係省庁等外部との間の情報共有を推進すること、ネットワーク回線などの情報通信インフラの充実を行うことを政策の方向性として情報通信分野の重点整備を行うことにより、情報通信を活用する時代への対応を進めていくこととしている。

今後の対応

今後は、整備した共通ソフトウェア部品の改善等による品質向上を行い、COEを活用する指揮系システムを拡大させる一方、多様化が進む自衛隊の活動を効果的に行えるよう後方系システム等が保有する情報の共有を可能とする基盤整備を行い、さらなるシステム間の情報の共有化を推進する。	その他の参考情報